



武 久 堅 教 授 (2005 年 1 月 7 日 撮 影)

武久 堅教授・略歴と業績

一九三六年七月二七日 出生 本籍 兵庫県芦屋市浜芦屋町五二番地

学 歴

一九四二年四月 大阪市立金甌幼稚園入園、翌年三月卒園
一九四三年四月 大阪市立金甌小学校入学
一九四四年四月 奈良県五條小学校へ転校（戦時下強制疎開のため）
一九四九年三月 奈良県五條小学校卒業
一九四九年四月 奈良県五條中学校入学
一九五二年三月 奈良県五條中学校卒業
一九五二年四月 奈良県立五條高等学校入学
一九五五年三月 奈良県立五條高等学校卒業
一九五五年四月 関西学院大学文学部日本文学科入学
一九六〇年三月 関西学院大学文学部日本文学科卒業（同窓会長賞受賞）
一九六〇年四月 関西学院大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程入学
一九六二年三月 関西学院大学大学院文学研究科日本文学専攻修士課程修了

一九六二年四月 関西学院大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程入学
 一九六五年三月 関西学院大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程単位取得満期退学

学 位

一九九〇年七月三日 関西学院大学 文学博士 論文題名 平家物語成立過程考

職 歴

一九六〇年四月	～	一九六二年三月	関西学院大学文学部専任助手補
一九六二年四月	～	一九六八年三月	関西学院大学文学部嘱託助手
一九六八年四月	～	一九七二年三月	広島女学院大学文学部専任講師
一九七二年四月	～	一九八一年三月	広島女学院大学文学部助教
一九八一年四月	～	一九八六年三月	広島女学院大学文学部教授（この間、一九八一年～八五年学校法人評議員、 一九八三年～八六年教務部長・法人予算委員）
一九八六年四月	～	現在に至る	関西学院大学文学部教授
一九八七年四月	～	現在に至る	関西学院大学大学院文学研究科前期課程指導教授
一九九〇年四月	～	現在に至る	関西学院大学大学院文学研究科後期課程指導教授

大学非常勤講師出校歴

広島大学文学部

(一九七五年度)

鳥取大学教育学部 (一九八一年度)

活水女子大学文学部

(一九八七年度)

梅花女子大学大学院 (一九八九年度～二〇〇一年度)

広島文教女子大学

(一九九〇年度)

広島大学教育学部 (一九九二年度)

大手前大学人文科学部

(一九九五年度～現在に至る)

京都女子大学大学院 (二〇〇〇年度～現在に至る)

吉林大外国語学院日語部

(一九九三年八月九月、二〇〇〇年八月九月)

所属学会・研究会

中世文学会

(一九六〇年一月入会、現在学会委員)

全国大学国語国文学会

(一九六一年四月入会)

日本文芸学会

(一九六三年一月創設時入会、現在常任理事)

軍記・語り物研究会

(一九七八年五月入会)

説話・伝承学会

(一九八〇年四月入会)

中世文学研究会

(一九八六年九月入会、一九九五年一月閉会)

大阪国文談話会中世部会

(一九八七年四月入会、一九九八年閉会)

関西軍記物語研究会

(一九八七年二月創設時加入・論集編集委員)

説話文学会

(一九九〇年六月入会)

神戸古典文学研究会

(一九九五年八月、中世文学研究会が改称され再開、加入)

国文学研究資料館文献調査員

(一九七四年度、中国四国地区担当)

社会活動

大学キリスト者の会

(一九六九年七月入会)

西中国教区宣教研究会委員

(一九七二年～一九七五年)

学校法人広島南部教会学園理事・評議員

(一九八二年四月～一九八八年三月)

総務庁行政改革審議会、広島行政監察局代議員

(一九八五年度)

広島市中央公民館、広島市温品公民館講師

(一九八五年度)

池田市生涯学習大学講師

(一九九一年四月～現在に至る)

神戸女学院同窓会講師

(一九九二年四月～一九九八年三月)

六甲読書会主宰

(一九九五年三月～現在に至る)

伊丹市生涯学習センター講師

(一九九八年四月～現在に至る)

大阪朝日カルチャーセンター講師

(二〇〇〇年四月～現在に至る)

神戸新聞文化センター講師

(二〇〇二年九月～現在に至る)

大学基準協会専門審査分科会委員

(二〇〇三年四月～現在に至る)

宝塚市再生企画委員

(二〇〇三年一〇月～現在に至る)

大学院生時代の中学・高校非常勤講師歴

報徳学園中学校（一九六一年度）

浪速工業高等学校（一九六二年度）

樟蔭高等学校（一九六三年度～一九六五年度）

報徳学園高等学校（一九六六年度～一九六七年度）

業績一覧

著書

『平家物語成立過程考』 一九八六年一〇月 桜楓社、再版 一九九九年 五月 おうふう

『平家物語の全体像』 一九九六年 八月 和泉書院

『平家物語発生考』 一九九九年 五月 おうふう

監修

『保元物語六本対観表』（監修責任） 二〇〇四年一〇月 和泉書院

『クリアカラー国語便覧』（共監修） 二〇〇一年一二月 数研出版

『間違いだらけの日本語』（監修） 二〇〇四年一〇月 実業之日本社

編著

日本文学研究大成『平家物語Ⅰ』

一九九〇年 七月 国書刊行会

共編著

『軍記物語の窓』第一集

一九九七年十二月 和泉書院

『軍記物語の窓』第二集

二〇〇三年二月 和泉書院

共著

平家物語における愛の形象（『日本文芸の世界』）

一九六七年十二月 桜楓社

平家物語の世界構造 — 夢幻観と夢想譚の意義 —（『日本文芸学の世界』）

一九七〇年 一月 桜楓社

平治物語の成立（日本文学研究資料叢書『戦記文学』）

一九七四年 九月 有精堂

海道を下った四人の男 — 平家物語後半の人物伝承 —（『日本文芸学の世界』）

一九八五年 四月 清水弘文堂

軍記物の達成 — 『平家物語』 —（『軍記物の系譜』）

一九八五年 四月 世界思想社

平家物語の本質論をめぐる（『日本文芸学の体系』）

一九八八年十一月 弘文堂

大嶋神社・奥津嶋神社蔵「平家物語断簡」は二十四卷本か — 生成平家物語試論 —（『室町芸文論攷』）

一九九一年十二月 三弥井書店

説話する末世の予言者 — 平家物語の重盛伝承 —（『説話論集』第二集）

一九九二年 四月 清文堂

〈清盛語り〉の生態 — 持経者伝承の系譜 —（あなたが読む平家物語『説話と語り』）

一九九四年 一月 有精堂

平家物語における撰閲家の構図 — 生成平家物語試論 —（『軍記物語の生成と表現』）

一九九五年 三月 和泉書院

九条家の源二位頼朝卿 — 生成平家物語試論 —（『古文学の流域』）

一九九六年 四月 新典社

『平家物語』生成論の研究史、二十世紀一〇〇年の展望（軍記物語研究叢書『平家物語の生成』）

《安徳神話》の誕生 ―生成平家物語試論―（日本文学研究論文集成『平家物語・太平記』）

一九九七年 六月 汲古書院

長門本平家物語と源平盛衰記の関係（『長門本平家物語の総合研究』第三卷）

一九九九年 七月 若草書房

軍記文学成立の諸条件（軍記物語研究叢書『軍記文学とその周縁』）

二〇〇〇年 四月 汲古書院

辞典・事典・共同執筆

『平家物語事典』市古貞次編（執筆項目「延慶本」「屋代本」「祇園精舎」「灌頂卷」他）

一九七八年 三月 明治書院

『源平時代人物ものしり事典』水原一・他編（執筆項目「平氏に与した武将・武士」）

一九七九年 四月 新人物往来社

『日本文学大辞典』市古貞次・他編（執筆項目「六代勝事記」「五代帝王物語」他）一九八三年一〇月 岩波書店

『日本伝記伝説大事典』乾克巳・他編（執筆項目「後醍醐天皇」「源頼政」「北条政子」）

一九八六年一〇月 角川書店

『古典の事典』第三卷 山本健吉・他編（執筆項目「平家物語」「承久記」各解説と本文の抜粋・鑑賞）

一九八八年一月 河出書房新社

『平安時代史事典』角田文衛編（執筆項目「平家赤旗」）一九九四年 五月 角川書店

『兵庫県風土記』福島好和・他編（執筆項目「平家物語の虚と実」）一九九四年 八月 旺文社

『日本古典文学紀行』久保田淳編（執筆項目「屋島・志度」）

一九九八年 一月 岩波書店

『日本古典文学大事典』大曾根章介・他編（執筆項目「愚管抄」「保元物語」）

一九九八年 六月 明治書院

その他の編集

『瓦礫の下の小説——阪神大震災が押し潰した二十歳の夢と青春——重松克洋著』

一九九六年 一月 集英社

『時の輪』（重松克洋遺稿集）

一九九五年 七月（私家版）

『遼洋詩文集』（重松克洋遺稿）

一九九七年 一月（私家版）

『洗礼を受けてから——証しの生活——』（共編）（改定版再版）

一九七四年 五月 日本基督教団出版局

論文

保元物語の主題

一九六二年 三月 日本文芸研究 一四卷一号

関学大日本文学会

平家物語の無常観

一九六四年 三月 日本文芸研究 一六卷一号

関学大日本文学会

平家物語に描かれた木曾義仲の人間像

一九六四年 六月 人文論究 一五卷二号

関学大日本文学会

平家物語の叙事性

一九六五年 二月 日本文芸学 二号

日本文芸学会

平治物語の成立

一九六五年一〇月 日本文芸研究 一七卷二・三号

関学大日本文学会

平家物語の文芸学的研究法

一九六六年 二月 解釈と鑑賞 三一巻三号

至文堂

平家物語における死の形象

一九六六年一二月 日本文芸研究 一八巻四号

関学大日本文学会

平家物語における「恥」の形成

一九六九年 三月 国語と国文学 四六巻三号

東京大学国語国文学会

平家物語における後白河院の位置

一九六九年一二月 文学研究 三〇号

日本文学研究会

平家物語本文と為憲撰『世俗諺文』

一九七〇年 六月 文学 三八巻六号

岩波書店

平家物語における後白河院の位置(二)

一九七〇年 六月 文学研究 三一号

日本文学研究会

慈光寺本『承久記』序の様式

一九七一年 六月 文学研究 三三三号

日本文学研究会

平家物語と資経の『自暦記』——延慶本第二次編著者考——

一九七一年 八月 文学 三九巻八号

岩波書店

平家物語と経房の『吉記』——延慶本の編著過程について——

一九七二年 二月 論集 一二集

広島女学院大学

平家物語における院政期中級貴族の位置——勸修寺為房とその子孫——

一九七三年 五月 中世文学 一八号

中世文学会

伝承部と著述部——延慶本平家物語成立過程考——

一九七四年 一月 国語と国文学 五一卷一号

東京大学国語国文学会

大將争い事件の構想——延慶本平家物語成立過程考——

一九七四年 二月 国語国文学誌 四号

広島女学院大学日本文学会

『宝物集』と延慶本平家物語——身延山久遠寺本系祖本依拠について——

一九七五年 六月 人文論究 二五卷一号

関学大人文学会

維盛粉河詣の成立——延慶本平家物語第三次加筆の徴証——

一九七六年 三月 日本文芸研究 二八卷一号

関学大日本文学会

治承寿永の乱と『明月記』

一九七六年 九月 国文学 二二卷一一号

学燈社

『畠山物語』との関連——延慶本平家物語成立過程考——

一九七六年 一〇月 文学 四四卷一〇号

岩波書店

合戦譚伝承の一系譜——「屋島軍」の場合——

一九七六年 二月 国語国文学誌 六号

広島女学院大学日本文学会

平家物語読み本系諸本の成立過程 — 延慶本・長門本から源平盛衰記へ —

一九七八年 一月 国語と国文学 五五卷一号 東京大学国語国文学会

読み本系諸本の成立と展開

一九七八年 三月 別冊解釈と鑑賞・講座日本文学『平家物語』上 至文堂

延慶本平家物語の楊貴妃譚

一九七八年 二月 国語国文学誌 八号 広島女学院大学日本文学会

延慶本平家物語の表白・願文について — 読み本系諸本の成立過程 —

一九七八年 二月 論集 二八集 広島女学院大学

『発心集』『十訓抄』と読み本系平家物語 — 南都本から延慶本へ —

一九七九年 七月 国語と国文学 五六卷七号 東京大学国語国文学会

『愚管抄』依拠の二つの段階 — 平家物語四部合戦状態の位置 —

一九七九年 二月 国語国文学誌 九号 広島女学院大学日本文学会

平家物語「旧延慶本」の輪郭と性格 — 「南都異本」との関連 —

一九八〇年 二月 論集 三〇集 広島女学院大学

『将門記』依拠の段階 — 平家物語の貞盛伝と将門伝 —

一九八〇年 二月 国語国文学誌 一〇号 広島女学院大学日本文学会

鎌倉本保元物語と延慶本平家物語の先後関係 — 『六代勝事記』との共通本文をめぐって —

一九八一年 四月 国学院雑誌 八二巻四号 國學院大学

平家物語 語り本と読み本はいかに交流したか

一九八一年 六月 国文学 二六卷八号

学燈社

吉田資経略年譜稿

一九八一年二月 国語国文学誌 一一号

広島女学院大学日本文学会

平家物語の基本資料 — 吉記・山槐記・百練抄・愚管抄・玉葉・明月記・吾妻鏡 —

一九八二年 八月 別冊国文学「平家物語必携」

学燈社

「願立」説話の展開

一九八二年 九月 日本文芸研究 三四卷三号

関学大日本文学会

源通光現存和歌集成

一九八二年二月 国語国文学誌 一二号

広島女学院大学日本文学会

清盛伝承の様式と古層

一九八三年 二月 文学 五一卷二号

岩波書店

日本人一〇〇人の手紙 — 大夫房寛明・源義経 —

一九八四年 九月 国文学 二九卷一二号

学燈社

宗盛伝承の様式と平家物語の構想（上・下）

一九八六年一〇月・八七年一月 日本文芸研究 三八卷三・四号

関学大日本文学会

平家物語研究の現状と課題

一九八七年 五月 中世文学 三二号

中世文学会

平家物語における頼朝と義経 —「黄瀬川対面」の原光景—

一九八七年 一二月 国語国文学誌 一七号

平家物語における「高倉宮物語」の構造

一九八八年 一月 日本文芸研究 三九卷四号

滅亡物語の構築 —平家物語の全体像—

一九八八年 三月 文学 五六卷三号

失われた人を求めて —平家物語の維盛伝承（上・中・下）

一九八八年 一〇月 日本文芸研究 四〇卷三号

一九八九年 七月 日本文芸研究 四一卷二号

一九九〇年 七月 日本文芸研究 四二卷二号

平家物語における頼朝と義経 —「頼朝見参」と「腰越足留」と—

一九九一年 三月 活水日文 一二号

平家物語発生の時と場（その一） —生成平家物語試論—

一九九一年 一二月 人文論究 四一卷三号

平家物語発生の時と場（その二） —生成平家物語試論—

一九九二年 三月 軍記と語り物 二八号

野心の系譜 —軍記物語を貫くもの（二）—

一九九二年 九月 日本文芸研究 五〇周年記念号

広島女学院大学日本文学会

関学大日本文学会

岩波書店

関学大日本文学会

活水学院日本文学会

関学大日本文学会

軍記・語り物研究会

関学大日本文学会

野心の系譜 ―軍記物語を貫くもの(二)―

一九九四年 九月 日本文芸研究 四六卷二号

関学大日本文学会

平家物語における後白河院系物語の輪郭と性格 ―生成平家物語試論―

一九九四年一〇月 関西学院大学文学部六〇周年記念論集

関学大文学部

平家物語 その変身。 ―「後白河院」「伝奇」と「住吉大明神」を中心に―

一九九五年 三月 軍記時と語り物 三一号

軍記・語り物研究会

《安德神話》の誕生 ―生成平家物語試論の一環として―

一九九六年一二月 日本文芸研究 四八卷三号

関学大日本文学会

《安德神話》の展開 ―生成平家物語試論の一環として―

一九九七年 三月 広島大学日本語教育学科紀要 七号

広島大学教育学部日本語教育学科

《安德神話》の原点 ―生成平家物語試論の一環として―

一九九七年 九月 日本文芸研究 四九卷二号

関学大日本文学会

室町軍記を貫くもの ―野心の系譜(三)―

一九九九年 三月 日本文芸研究 五〇卷四号

関学大日本文学会

シンポジウム平家物語の終わり方

一九九九年 三月 軍記と語り物 三五号

軍記・語り物研究会

望郷の系譜 ―前期軍記物語を流れる念い―

二〇〇〇年 三月 日本文芸研究 五一卷四号

関学大日本文学会

叙事詩の文体

二〇〇〇年 六月 国文学 四五巻七号

学燈社

平家物語は何を語るか — 軍記文学と歴史文学の間 —

二〇〇〇年 二月 関西学院創立一一一周年文学部記念論集

関学大文学部

平家物語の後鳥羽院 — 平家物語は何を語るか —

二〇〇一年 三月 日本文芸研究 五二巻四号

関学大日本文学会

望郷の系譜 — 承久記・曾我物語から太平記まで —

二〇〇一年 二月 人文論究 五一巻三号

関学大日本文学会

平家物語の後鳥羽院(その二)

二〇〇二年 三月 日本文芸研究 五三巻四号

関学大日本文学会

平家物語「横田河原合戦」の木曾義仲造型 — 「武水別神社・八幡宮大本堂」からの発進 —

二〇〇三年 三月 日本文芸研究 五四巻四号

関学大日本文学会

作品研究〈屋島〉(上・下)

二〇〇三年 八月・九月 観世 七〇巻八号・九号

桼書店

木曾義仲受難の選択 — 「人質・清水冠者の派遣」 —

二〇〇四年 三月 日本文芸研究 五五巻四号

関学大日本文学会

シンポジウム軍記と仏教 — 平家物語を中心として —

二〇〇四年 三月 仏教文学 二八号

仏教文学会

延慶本平家物語の「火打城合戦」——「厳島明神の託宣」と「平家物語衰亡の予言」と——

二〇〇五年 一月 人文論究 五四卷四号

関学大人文学会

延慶本平家物語の、「孤子」への関心とその意味するもの

二〇〇五年 三月 日本文芸研究 五六卷四号

関学大日本文学会

書評・紹介

重友 毅著『秋成の研究』（紹介）

一九七一年 二月 国語国文学誌 創刊号

広島女学院大学日本文学会

山下宏明著『平家物語の生成』

一九八五年 三月 国語と国文学六二卷三号

東京大学国語国文学会

佐伯真一著『平家物語遡源』

一九九八年 二月 国語と国文学七五卷二号

東京大学国語国文学会

久保田淳著『中世文学の時空』

一九九九年 二月 国文学四四卷二号

学燈社

日下 力著『平家物語の誕生』

二〇〇一年 一月 日本文学五〇卷一二号

日本文学協会

月報・展望等

西行の心

一九六八年 二月 日本文学会会報

広島女学院大学

死の宿りの記録 ——西行の歌について——

一九七一年 六月 あゆみ三五号

広島女学院大学

源平盛衰記と金沢文庫蔵『観音利益集』

一九八〇年 一月『中世の文学八』月報

三弥井書店

絵巻の中の後白河院とその近習たち

一九九一年 九月『平家物語絵巻九』月報

中央公論社

八嶋には隙ゆく駒の足はやくして ——地名散策三五「屋島・志度」——

一九九三年一〇月 新大系『平家物語・下』月報 岩波書店

平成四年国語国文学界の展望（中世・軍記物語）

一九九四年 三月 文学・語学一四一号

全国大学国語国文学会

平家物語の魅力「主役は 人物を浮かべて流れる時の河である」

一九九七年十一月 アエラムック「平家物語がわかる」朝日新聞社

学会等講演

平家物語に見る広島

広島女子大学公開講演会

一九八三年十一月一八日

平家物語の人物伝承

広島女学院大学日本文学会

一九八五年四月二四日

海道を下った四人の男

山口女子大学春季講演会

一九八六年七月六日

厳島神社と平家物語

広島行政監察局主催職員研修講演会

一九八五年七月二二日

平家物語発生の時と場

大阪府高等学校国語科教諭研修会

一九九二年六月二〇日

平家物語の生成

関西学院大学日本文学会

一九九四年五月七日

壇ノ浦合戦後の女院物語の生成

京都女子大学公開講演会

一九九七年十一月一〇日

平家物語壇ノ浦合戦後の女院物語の生成

大阪府高校国語科教諭研修会

一九九八年六月六日

平家物語の後鳥羽院

覚一検校顕賞会第二回菖蒲忌記念講演会、於尼崎大覚寺

一九九八年六月二八日

軍記物語成立の条件 — 日本中世における —

軍事史学会関西支部会、於大阪学院大学

平家物語は何を語るか ―軍記と歴史文学―

一九九九年七月二四日

兵庫県丹有地区高校国語教師研修会、

二〇〇〇年一〇月三日

平家物語を読む ―その歴史文学としての面白さ―

池田銀行自然総研、於ホテル若水

二〇〇一年六月一八日

平家物語・木曾義仲造型の原点 日本文芸学会四〇回大会公開講演、於芦屋大学

二〇〇三年六月二一日

平家物語・木曾義仲造型の原点 龍谷大学龍谷学会学術講演会、

二〇〇三年一〇月三〇日

延慶本平家物語の、「孤子」への関心とその意味するもの

関学大日本文学会、

二〇〇四年六月五日

学会研究発表・シンポジウム講師 司会

平家物語の文芸性 日本文芸学会研究発表

関西学院大学

一九六六月二〇日

平家物語における院政期中級貴族の位置

中世文学会研究発表

日本女子大学

一九七二年五月二〇日

日本文芸学の方法 日本文芸学会公開討論会講師

関西学院大学

一九七七年六月一九日

海道を下った四人の男 ―平家物語後半の人物伝承―

軍記物談話会夏季大会研究発表

神戸大学

一九八四年八月四日

平家物語研究の視角

中世文学会公開シンポジウム講師

早稲田大学

一九八六年五月二四日

平家物語の本質論をめぐって

名古屋軍記物語研究会研究発表

丸の内会館

一九八八年八月二四日

平家物語発生の時と場

軍記・語り物研究会夏季大会研究発表

国学院大学

一九九一年八月二四日

野心の系譜 — 軍記物語を貫くもの —

関西軍記物語研究会研究発表

吉野山太鼓判

一九九二年七月二二日

平家物語 その変身。 — 延慶本平家物語研究の現在 —

軍記・語り物研究会夏季大会シンポジウム講師

法政大学

一九九四年八月二五日

《安徳神話》の誕生 — 生成平家物語試論の一環として —

関西軍記物語研究会研究発表

笠置山松本亭

一九九六年七月二〇日

平家物語の終わり方

軍記・語り物研究会夏季大会シンポジウム司会

大阪工業大学

一九九八年八月二〇日

望郷の系譜 — 前期軍記物語を流れる念い —

関西軍記物語研究会研究発表

播州書写山田教寺会館

一九九九年七月一七日

軍記と仏教 — 平家物語を中心として —

仏教文学会公開シンポジウム司会

京都女子大学

二〇〇三年六月七日

雑誌・新聞等の随想及び弔辞

「招待状」 一九六八年 五月 あゆみ 一七号

広島女学院大学 Y W C A

「広島とヒロシマ」 あゆみ 一九号

一九六八年一〇月

広島女学院大学 Y W C A

「Y W C A の使命を問う」 ひかり

一九六八年一二月

広島女学院大学 Y W C A

「一級国道」 ひかり

一九六九年一二月

広島女学院大学 Y W C A

「言葉で空間をうめたい」(教授訪問) ひかり

一九六九年 五月 広島女学院大学新聞 七二号

広島女学院大学学生会

「もはや戦前である」 あゆみ 三〇号

一九七〇年 九月

広島女学院大学 Y W C A

「不条理にして空無」 ひかり

一九七一年 三月

広島女学院大学 Y W C A

「教職研修会報告」(宣教研究会信徒委員として)

一九七二年 三月 西中国教区通信

日本キリスト教団西中国教区

「瀬戸内の源平伝説」

一九七六年一月一五日 中国新聞夕刊 “でるた”

中国新聞社

「愛と希望は人生の灯」(羽仁説子講演を聞いて)

一九七七年 一月 広島女学院報 六一号

広島女学院

「半島の旅 島の旅」

一九七七年 八月 キリスト教学学校教育 二〇八号

キリスト教学学校教育同盟

「学生時代の三つの邂逅」

一九七八年 四月 チャペルだより 五号

広島女学院大学宗教委員会

「私の文学」

一九七八年 五月 オリエンテーションキャンプ入門講座

広島女学院大学日本文学科

「かいばおけと杖と十字架」

一九七九年 二月 YWCAひろしま

広島キリスト教女子青年会

「キャンパス 立ちばなし」

一九七九年 四月 キャンパス・ニュース 四三号

広島女学院大学

「キャンパス 千夜一夜」

一九八〇年 四月 キャンパス・ニュース 四九号

広島女学院大学

「骨折」 一九八一年 四月三日 中国新聞夕刊 “でるた”

中国新聞社

「キャンパスうらおもて なんとなく華麗らしい」

一九八一年 四月 キャンパス・ニュース 五五号

広島女学院大学

「それらの体験のどの一つを欠いても —キリスト教と私—」

一九八一五月

チャペルだより 二九号

広島女学院大学宗教委員会

「藤原与一先生のご退任に際して」

一九八一年二月

国語国文学誌 一一号

広島女学院大学日本文学会

「随想 樫の木は成長した」

一九八一年二月

キャンパス・ニュース 五九号

広島女学院大学

「広島姉妹校より」

一九八二年 六月

関西学院通信クレセント 一二号 六卷一号

関西学院

「聖書のことばが少し遅れてやって来て」

一九八三年十一月

チャペル・だより 四七号

広島女学院大学宗教委員会

「学生時代の道しるべ ―あなたはどのコースに熱中するか―」

一九八四年 四月

キャンパス・ニュース 七三号

広島女学院大学

「一期一会」

一九八六年 三月

キャンパス・ニュース 八四号

広島女学院大学

「日本古典文学の二つの宝庫より ―大東急記念文庫と静嘉堂文庫―」

一九八六年十一月

時計台 三八号

関西学院大学図書館

「時を知る」

一九八七年 一月

チャペル週報 二七号

関西学院宗教センター

「入院体験の記」

一九八八年十二月 病床通信 一四一号

関西学院宗教活動委員会奉仕部

「飼葉おけと杖と十字架」

一九八九年十二月 チャペル週報 一二二号

関西学院宗教センター

「研究余話「平家物語」の全体像を掴む」

一九九〇年十二月 関西学院通信 二号

関西学院

「青春 それは約束。――いのち・学問・信仰 そして母校――」

一九九一年 四月 チャペル週報 三号

関西学院宗教センター

「弔辞 實方清先生をお偲びして」

一九九三年 八月一七日

御自宅での前夜式にて

「青春 それは約束。――いのち・学問・信仰 そして母校――」

一九九四年 三月 K G キリスト教フォーラム 四・五号合併号

関西学院宗教センター

「今 あの先生は……」

一九九四年 四月 広島女学院同窓会東京支部ニュース 一二号

広島女学院同窓会東京支部

「呼びかける声 語りかける行動。」

一九九五年 五月 ――震後元年・春季宗教運動に期待する――

関西学院宗教センター

「とびら」

「重松克洋君を哀惜する言葉」

一九九五年 七月

関西学院阪神淡路大震災追悼文集『風に想う』 関西学院宗教活動委員会

「瓦礫の下の小説 あとがき」

一九九六年 一月 重松克洋『瓦礫の下の小説』

集英社

「震災で逝った“未完の青春”を悼む」

一九九六年 二月 青春と読書 三一巻二号

集英社

「希望の指針」を ―宗活通信に寄せて―

一九九六年 三月 宗教活動委員会通信 三五号

関西学院宗教活動委員会

「紹介 瓦礫の下の小説」

一九九六年 三月 季刊読書のいずみ 六六号

全国大学生協共同組合連合会

「巻頭言」 一九九六年一〇月 K G キリスト教フォーラム 八号

関西学院宗教センター

「追悼文 アフリカの風よ ザンジバルの海よ」

一九九七年 一月 『河野浩二の旅日記 アフリカよありがとう』 新風書房

「キリスト教主義に基づいて人格を陶冶する」という学則第一条の目的遂行のための

大学の方策 ―制度とメニューと担い手―

一九九七年 一月 キリスト教主義教育 二三号

関西学院

「ヘキリスト教活動」の「自己点検」

一九九七年 三月 宗教活動委員会通信 三六号

関西学院宗教活動委員会

「巻頭言 関西学院の「顔」」

一九九七年一月 K G キリスト教フォーラム 九号

関西学院宗教センター

『軍記物語の窓』刊行の辞」

一九九七年 二月

『軍記物語の窓』第二集

和泉書院

「中島洋一教授の御退任に際して」

一九九八年 二月

日本文芸研究 五〇巻三号

関西学院大学日本文学会

「高松政雄教授のご退任記念号に寄す」

一九九九年 三月号

日本文芸研究 五〇巻四号

関西学院大学日本文学会

「軍記物語学 ―敗れた側包み込む文学―」

一九九九年 五月三二日

朝日新聞学芸欄

大阪朝日新聞社

「弔辞 惜別田中俊一先生」

二〇〇〇年 三月二七日

西宮山手会館告別式にて

「軍記と室町物語の懸け橋」

二〇〇〇年 四月

池田敬子著『軍記と室町物語』推薦文

清文堂

「地上の教会・神の家族の教会」

二〇〇〇年 四月

会報 九二号

日本基督教団宝塚教会

「分級の頃、その後の事など」

「黄葆生君の思い出」

二〇〇〇年 七月

『無題（だいなし）』

おたまじゃくしの会

「二一世紀への懸け橋 ―学院創立二一周年記念・秋の宗教運動に期待する―」

二〇〇〇年一〇月

チャペル週報 一四号

関西学院宗教センター

二〇〇一年 一月

『二一世紀の風・光・力』再録

関西学院

「追悼文 小林桂助氏ご夫妻との一夕の会食を懐かしむ」

二〇〇一年一〇月

『小林桂助追悼文集』

文集刊行会

「たてしな通信・季節のたより」

二〇〇一年 三月～二〇〇四年七月、一、二、四、五、六、七、一〇号

たてしな山荘管理組合

「スカイセミナー 平家物語論 母親の一言が紡ぎ出す義仲と乳兄弟の物語り」

二〇〇二年 三月

ウインズ4月号

日本航空

二〇〇二年 五月

関西学院通信ポブラ 三六号転載

関西学院

「キリスト教主義教育の関西学院よ 何処へ」（関西学院歴史サロン第七回記録）

二〇〇三年 三月

関西学院史紀要 九号

関西学院学院史編纂室

「古典文庫の学恩に謝す」

二〇〇三年 四月

『文集吉田幸一先生敬慕』

古典文庫会員有志一同編

「学問の先進化と信仰の継承と」

二〇〇四年 一月

チャペル週報 一八号

関西学院宗教センター

「武久 堅・略歴と業績」

二〇〇五年三月

日本文芸研究 五六巻四号

関学大日本文学会